

老いてもともに助け合う

男女共同参画推進座談会



市男女共同参画推進懇話会では、11月13日に「男女共同参画と福祉」をテーマに座談会を開催し、市長と、目ごろから男女共同参画について関心を持ち積極的にかかわって見える委員のかたにお話いただきました。
市民課人権・生活係 ☎1126

市長 みなさんお忙しい中、座談会にお集まりいただきありがとうございます。

社会において男女共同参画はとても大切であると考えていますが、特に日本では、男性・女性の固定的な役割が強く、浸透させていくことは容易ではありません。しかし、そういったさまざまな問題をクリアして、男女共同参画を進めていかなければならないと考えています。

本日は、みなさんのご意見を聞かせていただきたいと思いますので、よろしくお願います。

今井会長 それでは、事前アンケートの結果、一番多かった「老いてもともに助けあう」というテーマでお話を進めていきたいと思っておりますので、ご提案をお願いします。

上村委員 年を重ねていくと、どうすれば健康に気を付けて生活していけるのかと考えます。わたし自身は、趣味を持ち、規則正しい生活を送るよう努めています。また、ストレッチなどで体力をつけるようにもしています。趣味や体を動かすことで、心と体をリフレッシュし、健康を維持したいと思っています。

木田市長
本計画の重点分野に、「生涯を通じた女性の健康支援」とあります。規則正しい生活の中から健康を維持し、活力ある毎日が過ごせるよう努力していくことも大切ですよ。



今井 縁会長
意味で、法律に基づいて施設の利用範囲を判断してまいります。わたしの個人的な裁量で、目的外の使用は認められません。ただ、きちんとした目的と姿勢を構えた中で、これは補助対象、これは対象外と決めれば利用可能な範囲も出てくると思います。



藤原委員 わたしは「しおさい」がオープンしたころ、講師として派遣されていました。引きこもりがちな一人暮らしのかたを中心に、お茶とお華の講座を開いていましたが、みなさんの姿は、とても生き生きしていました。このときみなさんとの交流を通して得た体験が、今のわたしの福祉の原点になっています。

今井会長 今ある物をどうしたらうまく活用できるのかというところを探っていくことが、年齢に関係なく、男女が生き生きと安心・安全に生活していくことにつながっていく

